



エレクトロニクスに魅せられて ～子ども時代の出会いと体験から～

CSポート代表取締役社長
富山県教育委員 町野 利道

人間の記憶はどのくらいの年齢から残っているのでしょうか。幼少期の私はスコップや金槌を持って家のそばで何かをやっていたらしい。

祖母がどこへ行ったかと「利道、としみち」と呼ぶと、よく大きなスコップを持ってやっこらと祖母の前に現れたそうです。

ぐらぐらと地面が揺れ、その祖母が右往左往していたのが動画のごとく記憶に残っています。1948年6月の福井地震で1才と5ヶ月のことです。

小学校時代は悪いことばかりしていて、先生に叩かれない日は無いくらいでした。

毎日叩かれているといろいろと工夫するもので、ほっぺたを叩かれる直前に口に空気をためて膨らませ、叩かれると同時に空気を出すと痛みが少なくなります。先生の方も手加減して叩いておられたと思います。その先生が青筋を立てて怒られたことがありました。友達が画いている絵に、私がちょっと手を入れた時のことです。

自分の基軸は「芸術家」と考えています。芸術とは作品を通して自分を表現することで、作り上げたものから町野が彷彿と出てくるものと考えています。製品の設計も企業経営も芸術的にと努力して来ました。

小学校3年生から6年生まで受け持ってもらった先生が、垂細垂美術展に入賞経験のある人でした。当時の先生方には宿直があって、月に何回か夕飯を済ませると、友達と一緒に学校へ行って夜の11時、12時まで図工を習い楽しみました。

絵を描いたり、粘土細工をやったり、焼き物をやる楽しみもありましたが、夜遅くなると先生が出前を頼んだラーメンを頂くのが目的だったかもしれません。

10才の頃に3年間もこんなことをやっていたので完全に身底に着いたと思います。今はあの世に居られますが私の一生の恩人です。

小学校5年生ぐらいから磁石に興味を持ち電気に関することを始め、お定まりの鉱石ラジオまで行き、中学生になると真空管を使った並四受信機にたどり着きます。

高校ではアマチュア無線技士の免許を取り、受信機や送信機を自作するようになります。

まさに電気少年です。

アマチュア無線には各地にクラブがあり、私も「富山クラブ」に入会し、大人の中に入っての付き合いが人生に大きな影響を与えました。

普通科で得られる電気の知識には限りがあるので、放課後は工業高校へ行って

電気の先生に教えを請いました。

「エレクトロニクスは東京だ」と東京電機大学に入学しましたが、当時電大の入学試験は二乗平均で順位を決めていて、全体の成績は悪いが数学、物理が得意な私にとってはとても良い制度でした。

そのころはエレクトロニクスも真空管からトランジスタへの切り替わり時期で、先輩達はトランジスタが分からないので、「こんなことも分からないのか」と言う叱責がありませんでした。お陰で我々の世代は自由に成長できたと思っています。

技術が進歩し、我々にはマイクロコンピュータが分からないという同じことが起きています。電気の世界も電気工学—電子工学—情報工学—メカトロニクスと幅が広がり、それぞれの分野の中でもどんどん細分化が進み、大変な情報量になって来ています。

これらの情報は多すぎて全部は身に付かないので、いきおい細部は省略してど

んどんブラックボックス化したものを勉強することになります。

理学は自然界の事象を理論化することであり、工学はその理論化されたものを使って社会に役立てることで、その意味では、学校では理論は教えますが社会のことは教えません。

生徒達は学校を出てから社会のことを勉強するとともに、仕事に必要な細部の知識について掘り下げますので、それを成し遂げるための『勉強する力』を醸成することが肝心と考えます。

また、保有能力が高くても発揮能力が低いと、世の中の為に役立って幸せになることは出来ません。

知識ばかり詰め込むのでは無く、健康な体をつくり集中力を高め、美しいものに感動し、人との関係を豊かなものとするため、基本としての体育や芸術の時間を増やすようにしたいものです。

自作したアンプの一例 ~原点は子ども時代の興味から~

「楽曲を奏でるのは演奏家であり、時間と空間を超えてその音を甦らせるのはエンジニアである。」



【20W+20W ステレオアンプ】

〈よりクリアな音をもたらすよう歪率を徹底して下げた〉



【9W+9W ステレオアンプ】

〈現在テレビをこのアンプで鳴らしているが音が明瞭になった〉



【4ch マイクアンプ】

〈これのおかげで非常にクリアな録音が出来ようになった〉